

## 1月の銅マーケットレポート及び2月の見通し (3)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎



## ■概況

【自動車】12月の四輪車生産台数は79万1315台で、前年同月比+1.3%となり15カ月連続前年同月を上回った。輸出は43万3390台で前年同月比+2.5%。

【販売】1月の国内自動車販売台数(軽を除く)は、24万3435台で前年比-5.7%。3カ月連続のマイナス。その内訳は、乗用車が-6.1%。貨物が-1.8%。バスが-22.4%。

【住宅】平成29年12月の住宅着工戸数は76,751戸で、前年同月比で2.1%減となった。また、季節調整済年率換算値では93.6万戸(前月比2.7%減)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で6カ月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに減となった。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)前年同月比では7カ月連続の減少(前年同月比2.5%減、季節調整済の前月比では0.4%増)。

(貸家)前年同月比では7カ月連続の減少(前年同月比3.0%減、季節調整済の前月比では9.8%減)。

(分譲住宅)前年同月比では先月の増加から再びの減少(前年同月比1.3%減、季節調整済の前月比では4.4%減)。

(分譲マンション)前年同月比では先月の増加から再びの減少(前年同月比11.0%減)。

(分譲一戸建住宅)

前年同月比では3カ月連続の増加(前年同月比6.6%増)。

【アルミニウム二次合金同合金地金等生産実績】アルミニウム二次合金同合金地金等生産実績は、前年比+2.7%の6万7569t。3カ月連続プラス。出荷が+5.2%の6万9463t。3カ月連続プラス。その内訳を見ると、鋳物が+8.4%、ダイカストが+5.3%、板が+4%、押出が+9.8%、鉄鋼が-4.7%、合金地金メーカーが-3.7%。

【アルミ圧延・押出生産数】日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比+2.4%の17万946t。2カ月ぶりプラス。板類は生産・出荷共にプラス。

(1)缶材は3万608トン(-9.0%)ビール系飲料がマイナスとなったのに加え、ボトル缶の減少(前年が高水準)により、2ヶ月連続でマイナス。

(2)自動車は1万4253トン(+9.3%)

乗用車へのアルミ需要増やトラック架台の好調により、10ヶ月連続でプラス。

(3)輸出は1万7987トン(+11.9%)

前月のマイナスからプラスに転ず。押出類は生産、出荷ともにプラス。

(4)建設は3万9474トン(-0.9%)

5ヶ月連続でマイナスとなったが微減であり、東京オリンピック・パラリンピックに向けた都市開発の整備に伴う建設向け需要は継続。

(5)自動車は1万2173トン(8.2%)

乗用車へのアルミ需要増やトラック架台の好調が継続し、3ヶ月連続でプラス。

【輸出】アルミ新地金が前年比+33.1%の314t。二次合金が+2.1%の2429t。スクラップが+7.6%の1万2274t。アルミ缶が-12.4%の4785t。

【輸入】アルミ新地金が前年比-8.9%の11万7659t。二次合金が+2.4%の10万3858t。スクラップが+42.9%の560t。合金スクラップが+67.5%の4210t。

## ■見通し

自動車は生産が+1.3%。国内販売台数が前年比-5.7%。生産が15カ月連続プラス。販売は3カ月連続マイナス。販売で連続マイナスが今後も続くのか注意が必要。

住宅着工の動向については、前年同月比で-2.1%と6カ月連続マイナス。下げ傾向かどうか今後の動向に注目。アルミ圧延・押出生産数は、板類・押出生産合計は前年比-0.7%の7万946t。2カ月ぶりプラス。今後もプラスが続くのか動向に注目。

【アルミニウム二次合金同合金地金等生産実績】前年比+2.7%の6万7569t。3カ月連続プラス。出荷は+5.2%の6万9463t。3カ月連続プラス。プラスが続くのか今後の動向に注目。

アルミ輸出は、中国環境規制に伴う需給の引き締め感から増加した。アルミ缶では韓国輸出が減少した。

アルミ輸入は、自動車生産の堅調から二次合金及びスクラップが増加、その他は減少。

【スクラップ需給予想】流通在庫は、自動車生産・住宅着工などが比較的好調だったことから、そこそこあるのではないかと。

需要面に関しては自動車の生産が好調だった。ただ、販売が2カ月連続で減少していることや12月にLMEアルミが2000ドル~2100ドル近辺と100ドル程度下落した場面の在庫が今もある事から購買意欲は薄いのではないかと。

【価格・為替予想】今月はアメリカの金融政策動向や平昌五輪後の北朝鮮問題に左右される。

アメリカの金融政策に関してしては、雇用統計の結果を受けて長期金利の指標となる10年物国債利回りが一時的に2.85%とほぼ4年ぶりの水準に上昇、株式の相対的な割高感や米利上げペースが速まる可能性が意識され、NYダウが665ドル大幅下落した。

今後も企業減税などにより好調な経済指標が出てくる可能性は高く、商品・株などからの資金流出が懸念される。

北朝鮮問題に関しては、オリンピック前の視察キャンセルや共同事業の中止、軍事パレードの開催疑惑などはあるが、一方的に悪化する可能性もなく一進一退か？

これらを踏まえた2月のアルミ価格は、米金融政策で引き締めや、それを示唆するようなコメントが行わず、北朝鮮

【次頁へ続く】

が追加的な軍事的アクションを起こさなかった場合、先月一段高値の2300ドルを予測。いずれかの場合は2200ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合で先月安値の2100ドル。為替は、上述の材料から円

安値、9月後半安値の108円～112円(TTM)台を予測。スクラップ購買価格に関しては、0～+5円程度と予測している。

【「1月のアルミレポート及び2月見通し」今号終了】